

第13課 提到話題：とは・といえば・という と／といったら・(のこと) となると・といっ たら

第13課對應《新完全マスター N2》第1部「II 主観を含めて説明する（帶主観説明）」的第13課，主題是「提到某個話題、某個詞」時的各種講法。這幾個形都以「～」這個詞或話題作為起點，再延伸下去，但延伸的方向各有不同：替一個詞下定義（或表驚訝）的～とは、由話題聯想或轉換到另一件事的～といえば、一提到就馬上想起的～というと・～といえ
ば・～といったら、一旦講到態度就變的～（のこと）となると，以及說起某事那程度可真
不得了的強烈感嘆～といったら。

■ 今課目標

- 用～とは 替一個詞下定義（所謂...就是...），並認識它「竟然...」的驚訝用法。
- 用～といえば 由對方或自己提到的話題，聯想或轉換到相關的另一件事。
- 用～というと・～といえ
ば・～といったら 表達「一提到...，馬上想起的就是...」。
- 用～（のこと）となると 表達「一旦講到...，態度和平常不一樣」。
- 用～といったら 強烈感嘆「說起...，那程度真不是普通的...」。

一、～とは：所謂...就是...／竟然...

■ 替詞下定義，或表驚訝

～とは 有兩個用法。A（下定義）：是～というのは 的書面講法，用來說明、定義一個詞，後句多接「～だ・～である・～という意味だ・～のことだ」這類解釋。B（驚訝）：對某件事感到意外、難以置信，「竟然...」，後句多接「思わなかった・驚いた・とは」這類帶情緒的反應。

■ 形式規則

A 下定義：名詞 + とは + 解釋句（～だ・～である・～という意味だ・～のことだ）。B 驚訝：名詞／動詞・形容詞普通形 + とは + 意外、難以置信的反應。

■ 例句

1. 「校正」**とは**、文章の誤りを直す作業のことだ。
→ 所謂「校對」，就是修正文章錯誤的工作。(A 下定義)
2. 「黒字」**とは**、収入が支出を上回っている状態である。
→ 所謂「盈餘」，是指收入超過支出的狀態。(A 下定義)
3. あの真面目な彼が、まさか会社を辞める**とは**思わなかった。
→ 那麼認真的他，竟然會辭職，真沒想到。(B 驚訝)
4. こんな所で昔の恩師に会える**とは**、夢にも思わなかった。
→ 竟然能在這種地方碰到從前的恩師，做夢也想不到。(B 驚訝)

二、～といえは：說到... (聯想／話題轉換)

■ 接過話題，引到相關的另一件事

～といえは 把對方剛說的、或自己想起的某個詞當作話題接過來，再順著它引出有關連、但內容不同的另一件事。常用於把話題自然地轉到自己想講的方向，後句往往是新的情報或提議。

■ 形式規則

名詞／普通形 (ナ形容詞・名詞可省 だ) + といえは。直接接在對方的話、自己的話或想起的詞之後；後句引出相關但不同的另一件事。

■ 例句

1. このお菓子、京都のお土産なんです。京都**といえは**、来月そちらへ出張するんですよ。
→ 這個點心是京都的手信。說到京都，我下個月要去那邊出差呢。
2. 「来週から夜が涼しくなるそうですね。」「涼しくなる**といえは**、そろそろ衣替えをしないとイケませんね。」
→ 「聽說下星期起晚上會變涼。」「說到變涼，差不多該換季了。」
3. 春**といえは**、今年こそ家族で花見に行きたい。
→ 說到春天，今年無論如何都想和家人去賞花。

三、～というと・～といえば・～といったら：一提到...就想起...

■ 聽到這個詞，馬上想起的就是...

～というと・～といえば・～といったら 表示「一提到某個詞，腦海裡馬上浮現、想起的就是...」，三者意思相近、可互換。另外，～というと 還有一個用法：把對方說的詞再確認一次，看看是否和自己想的一樣，這時後句多接「～ね・～かな」等確認的講法。

■ 形式規則

名詞／動詞・形容詞普通形 + というと・といえば・といったら。後句接「一聽到就想起的東西」；～というと 另有「確認對方的意思」的用法（後接～ね・～かな 等）。

■ 例句

1. 北海道**という**と、広い大地と新鮮な海の幸を思い浮かべる人が多い。
→ 一提到北海道，很多人會想起遼闊的大地和新鮮的海產。
2. 夏の風物詩**とい**えば、やはり花火大会だろう。
→ 說到夏天的代表景物，果然還是煙花大會吧。
3. くじら**とい**ったら、まず思い浮かぶのは大きな体だ。
→ 一提到鯨魚，首先想到的就是龐大的身軀。
4. 「来週、本店で打ち合わせをします。」「本店**とい**うと、駅前のあのビルのことですね。」
→ 「下星期在總店開會。」「說到總店，就是車站前那棟大樓吧。(確認)」

四、～（のこと）となると：一旦講到...態度就不同

■ 碰到這個話題，態度就變了

～（のこと）となると 表示「一旦講到、一旦關係到某個話題，那個人的態度就會變得和平常不一樣」，常帶誇張、強調的語氣。後句一定是「態度起了變化」的內容（突然熱中、突然嚴格、突然滔滔不絕等）。

■ 形式規則

名詞 + （のこと）となると。後句接「態度變得和平常不同」的內容（突然熱中、突然認真、話停不下來等）。

■ 例句

1. 普段は無口な父も、釣りのこととなると話が止まらない。
→ 平時沉默寡言的父親，一講到釣魚就滔滔不絕。
2. 弟は、ゲームのこととなると急に専門家みたいになる。
→ 弟弟一講到電玩，突然就像個專家一樣。
3. おっとりした彼女も、お金のこととなると急に厳しくなる。
→ 性子慢條斯理的她，一講到錢就突然變得很嚴格。

五、～といたら：說起...那可真是...（強烈感嘆）

■ 那程度真不是普通的

～といたら 表示「說起某事，那個程度真不是普通的...」，是強烈的感嘆。後句接表達「程度非比尋常」的內容，多帶驚訝、感動、難以形容的情緒；有時後句甚至省略，只用「～といたら.....」拉長語氣，餘韻盡在不言中。

■ 形式規則

名詞 + といたら。後句接「程度非比尋常」的感嘆句（驚き・感動など）；有時後句可省略，作～といたら.....。

■ 例句

1. 合格発表で自分の番号を見つけたときの嬉しさといたら、言葉では言い表せないほどだった。
→ 在放榜時找到自己號碼那一刻的喜悅，真不是言語能形容的。
2. 初めて舞台に立ったときの緊張といたら、足が震えて声も出なかった。
→ 第一次站上舞台時的緊張，腿都在抖，連聲音也發不出來。
3. 頂上から見た夜景の美しさといたら、思い出だけで胸が熱くなる。
→ 從山頂看到的夜景之美，光是回想就讓人心頭一熱。
4. 一人で夜道を歩いたときの怖さといたら.....。
→ 一個人走夜路時那份恐懼，真是.....。（後句省略）

六、常見錯誤與總整理

「提到話題」各形整理

句型	核心意思	後句典型
～とは	所謂...就是... (下定義) / 竟然... (驚訝)	～という意味だ・のことだ / ～と思わなかった
～といえば	接過話題，引到相關的另一件事	相關但不同的新情報、提議
～というと・といえば・といったら	一提到...就馬上想起...	腦海立刻浮現的東西
～(のこと)となると	一旦講到...，態度就和平常不同	態度起變化 (突然熱中、嚴格等)
～といったら (感嘆)	說起...那程度真不是普通的	程度非比尋常的感嘆 (可省略)

■ 常見錯誤

- **×** 「校正」というと、文章の誤りを直すことだ。
 - **「校正」とは、文章の誤りを直すことだ。**
替一個詞下定義 (書面) 用 ～とは；～というと 是「一提到就想起」，不用來下定義。
- **×** 京都とは、来月そちらへ出張するんです。
 - **京都といえば、来月そちらへ出張するんです。**
接過話題、引出相關的另一件事用 ～といえば；～とは 是下定義或表驚訝。
- **×** 父は釣りのこととなると話す。
 - **父は釣りのこととなると話が止まらない。**
～となると 後句必須是「態度和平常不同」的內容 (如「話が止まらない」)，不能只是普通的動作。
- **×** 頂上から見た夜景の美しさといったら、きれいでした。
 - **頂上から見た夜景の美しさといったら、言葉にできないほどだった。**
～といったら 是強烈感嘆，後句要表「程度非比尋常」；「きれいでした」這種平淡的描述語氣太弱。
- **×** あの彼が会社を辞めるといえば、驚いた。
 - **あの彼が会社を辞めるとは、驚いた。**
「竟然...」的驚訝用 ～とは；～といえば 是接話題、聯想，不表驚訝。

自己輸出：用 とは・といえば・という／といったら・(のこと) となると・といったら 各寫一句。可替一個詞下定義、由一個話題聯想開去，或感嘆一次難忘的程度。
